

きぼう

ほっかいどう やかんちゅうがく かい
「北海道に夜間中学をつくる会」
かいほう なんばー
会報 No. 5

北海道内
ほっかいどうちゆうない

じしゅ やかんちゅうがく こうりゅう む 自主夜間中学の交流に向けて

がつ にち さくねん こんねん ぜんどうかくち かいこう じしゅ やかんちゅうがく こうりゅう めざし
8月29日(土)、昨年から今年にかけ全道各地で開校した自主夜間中学の交流を目指し、
ほっかいどう かい かい よ む じゅんぴかい きょういくかいかん
「北海道に夜間中学をつくる会」が呼びかけた「交流に向けての準備会」が北海道教育会館
ひら
で開かれました。

くどうけいいちきょうどうだいひょう いずみまさとし む きよくちよ めい さつぼろえんゆうじゅく いのうえ
「つくる会」からは、工藤慶一共同代表、泉雅人事務局長ほか9名、札幌遠友塾から井上
ひろき はこだて いまにしたかと くしろ かねむらのぶこ あべ
大樹事務局長、函館遠友塾から今西隆人代表、釧路くるかいから賀根村伸子代表と阿部
だいすけ しゅっせき
大輔さんらが出席しました。

しゅっせつめい はじ
工藤共同代表は趣旨説明をかねた始めのあいさつをしました。

かいこう きねんしき
札幌遠友塾は、9月20日に開校20年の記念式をおこなう。また、札幌遠友塾では、これまで
かいじょうかくほ なや つづ じゅぎょうないよう く た
会場確保にはずっと悩み続けた。また、授業内容をどのように組み立てるか悩み続けた。
かん いけん ちが の こ
スタッフ間の授業についての意見の違いをどう乗り越えていっていいかも悩みだった。

ぜんこくきぼ けんきゅうかい そうだん
それらのことは、全国規模での全国夜間中学校研究会などで相談しあい、この交流会をと
かいけつ まな ぼ ひろ
おして、これらの悩みを解決できるようにしたい。そして、全道に「学びの場」を広げていき
たい。

かくち い か
各地からの報告は以下のようなのです。

札幌遠友塾



こうりょうちゅうがっこう じゅぎょうふうけい
向陵中学校での授業風景

げんざい じゅこうせい いっせい こべつ
現在、受講生は82名、スタッフ86名で、一斉授業の3クラスと個別授業のじっくりクラスが
なか けいかく がくしゅう
ある。一斉授業は3年間で中学1年半ばまでの授業計画を立てているが、受講生の学習の
すす ぐあい けんとう
進み具合におうじて、授業内容を検討している。

たんとう ちゅうしん うご きょうか いがい
スタッフは担当クラス中心で動くようにし、教科を担当するスタッフは担当以外の教科の時

でも、受講生個々人の学習をサポートできるようにしている。

じっくりクラスは読み書きができない受講生、不登校経験者などに一对一の個別授業をすることを基本に、常時受け入れをしている。

遠友塾の受講から不登校経験者が定時制高校に行くようになった例もあるし、毎年3年修了後に定時制高校への入学者もでてくる。

また、学校教室を使うようになって使用方法(受付やカギ管理や掃除など)など、スタッフの新たな役割もでてきた。

受講生は高齢者が多く、週一回の授業日では覚えたこともすぐに忘れてしまうことから、今後、授業回数をどう増やすかが課題となっている。

函館遠友塾

開校への動機は、「単身赴任で時間をもてあましたため」といいつつも、札幌遠友塾でのスタッフ経験から函館でも自主夜間中学があったら良いなと思い立った。募集にはマスコミの力を借り、地元新聞社の記者の協力は大きい。その記者は、いまスタッフとして活動をしてきている。

人気の給食時間



授業は読み書き、算数を中心に社会、理科、英語の5教科。理科や社会は一コマ一コマ独立した授業で、今回の社会では、選挙があったので当初の授業予定を変更し、各政党の公約を紹介して「選挙にいきましょう」と呼びかけた。その時の社会的な状況におうじて授業内容を組むことを考えている。

塾生(函館遠友塾ではこう呼びます)は当初より増えて現在52名になった。スタッフは35名中、3分の1が現役の教員あるいは退職教員。学生さんは試験や実習などで忙しいので無理な出席を求めず、社会人スタッフにもできるだけ長く続けてくれることをお願いしている。

会場の総合福祉センターは交通の便が良く、福祉のボランティア登録団体になったことで会場費が無料になった。印刷も紙を持ち込めば無料となり助かる。会場の予約は半年前からなので、受付開始と同時に申し込みが殺到するので大変だが、夜の時間帯は意外に空いている。この会場での来年、再来年の会場確保もできている。

スタッフ会議では、学校教室が使えないかの声もでてくる。函館では60年以上前から地域の社会学級活動に教室を開放している歴史があるので、市教委に問い合わせしたが、校区の活動ではないので認められなかった。しかしスタッフに退職校長もいるので、そのつ

てで使わせてもらえる学校がないかを打診してもらっている。ただ9割方が高齢者なので、交通の便のいい場所を最優先とすると、当面は今の施設を使うことになるのではと思っている。学校教室を使うとなれば、月1回実施している人気の給食もできなくなるので、その迷いもある。

教科については、それぞれ現職教員や退職教員が担当している。教科によっては、教員経験そのまま授業をおこない、難しすぎるとの塾生の訴えがあるが、先輩の先生方に、授業内容を変えるようにいうのはなかなかいいづらい面もある。

釧路くるかい

いったいいち がくしゅう
一対一の学習

ことし5月に開校した。昨年10月に「こんばんは」上映会のポスター掲示を釧路教育大学にお願いにいったさいに、講師の添田さん（「くるかい」現事務局長）に会い、学生だった最近まで九州で自主夜間中学の活動をしていたことを知り、釧路で開設の話が一気に進んだ。当初、4月開校の予定だったが、講演会を挟んだので一カ月遅れた。



学習者（「くるかい」ではこう呼びます）の申し込みが多く、授業を一度ではできないので、火曜日に2回の時間帯に分けて実施している。午後5時15分からと7時からで、遅い方は仕事を終わってからの人が学んでいる。あわせて40人ほどで8つのテーブルに分かれ、一対一のペアで国語、数学、英語、歴史を学んでいる。

学習者と支援者ともに学習部会、行事部会、運営部会、会計部会などを作っており、札幌遠友塾のように全体のミーティングがうまくできていないのが悩み。意見がいろいろだされるが、その調整に火曜日以外の日を取ることが難しいため、集約できないでいる。各部会の打ち合わせを火曜日に集中させると授業にでられないなど、なかなか思うようにいかない。

学習を学習者と支援者との一対一でおこなう形は、大学生が多いのでなんとかこなしているが、やはり支援者が教科に得手不得手があるので習得に問題もでてくる。また、ペア以外のつながりが薄くなったり、休んだ人をカバーするさいに、組み合わせをつくるのに苦労している。

また学習者自身が「くるかい」の会員となり部会を構成し、支援者はそれをサポートする立場であることが、札幌遠友塾などと違っている。

教室に市の総合福祉センターの大会議室を使っているが、たいへんなのは、施設の都合で部屋替えを求められることがあり、そのつど学習者に知らせなければならないこと。また1年だけの契約なので、来年どうなるかも心配だ。事務局長のつながりで学校を使ってもいいという話もあるようだが、函館と同じで高齢者が多く、交通の便がよくないと困る。その学校は今の場所よりは不便なので、まずは今の場所を優先していきたい。

学齢期の不登校生徒を3人受け入れているが、そのことで現職の先生からは市教委との折り合いが悪くなるのではとの懸念もでている。また、支援者の学生は卒業するので、来年も同じように集まるかなど心配ごとが付きにくい。

(※なお、「学習者」と「支援者」と呼ぶのは、「くるかい」にくるお互いが「対等の立場にある」との表現であるとの説明がありました。)

札幌遠友塾 20年の集いが開かれる



札幌遠友塾の開校二十周年の集いが、札幌市教育文化会館で開かれました。全道の自主夜間中学のみなさんが参加し、旭川遠友塾から四名、函館遠友塾から二名、釧路「くるかい」から二名がこられ、札幌遠友塾の受講生と生活体験発表をつうじた交流を行いました。

そして、いまどのようなことを学習しているか、熱心に話しあつていました。また、来年からも授業会場は引き続き使えることを強く希望していただきました。(記念誌がでます)

この後、各報告を受けての話しあいに入り、①授業をどう進めていくか②会場をどう確保していくか③スタッフの協力体制をどうつくっていくかなどが、今後の交流を進める課題にあげられました。

くわえて、今準備会の呼びかけの趣旨である、受講生相互の交流のあり方としてどのようなことが考えられるのかを念頭におきながら、これら3点を話しあつたらいかがかとの提案がありました。

交流準備会は、「準備」をはずし、各地の授業見学をしながら年2回程度の交流をおこなう。各自主夜間中学の近況をつたえる「北海道自主夜間中学のたより」を発行する。これらのことを申しあわせました。

さっぽろ えんゆう じゅく じゅこうせい
札幌遠友塾 受講生
めい たいけんはっぴょう
2名の体験発表

ぜんこく や かんちゅうがっこうけんきゅうかい ひがしにほん けんしゅうこうりゅうかい
全国夜間中学校研究会（東日本）研修交流会

いちにち はや こうとうく やかんちゅうがっこうかいせつ
「一日も早く江東区に夜間中学校開設を！」

「すべての人に義務教育を！専門委員会」（関本保孝委員長）が主催した「一日も早く江東区に夜間中学校開設を！」の集まりが、7月26日（日）に、江東区総合市民センターで開かれました。

公立夜間中学校の生徒さんや卒業生、自主夜間中学の学習者さんたちは、「語り合い、学び合おう」の体験発表をしました。

かた あ まな あ
語り合い、学び合おう



さっぽろえんゆうじゅく じゅこうせい めい ほっかいどう
札幌遠友塾から受講生2名とスタッフ1名、「北海道に夜間中学をつくる会」から4名が参加しました。そして、工藤共同代表は、いま北海道内に新たに旭川、函館、釧路に自主夜間中学が開校し、受講生や学習者の人数も約250名になっていることを報告しました。

そのあとに、札幌遠友塾受講生2名が生活体験を発表しました。二人の発表は参加者の心に響いたようで、多くの励ましが返ってきました。

とうきょうと すみだくりつぶんかちゅうがく えどがわくりつ
東京都江東区には公立の夜間中学がなく、墨田区立文花中学や江戸川区立第二中学の夜間学級には、多くの人が江東区からかよっています。

とない ぜんきょうしよくいん こうせい かいちゅう
都内8校の夜間中学校全教職員により構成される東京都夜間中学校は（会長は石崎和夫荒川区立第九中学校校長）の1973年からの調査によると、今年までにのべ1,065名もの義務教育未修了者が江東区から他区の夜間中学にかよっています。

かたみち まいにちじてんしゃ つうがく たいへん
バスをのりついできたり、片道1時間近く毎日自転車にのってきたり、通学も大変です。がっこう けいざいてき くる さいいじょう しゅうがくえんじょ りよう
学校にかようために、経済的に苦しくとも18才以上の方は「就学援助」も利用できません。

こ なんぶちいき えだがわ とよはま とよす す
それでも来られる人はまだいいのです。江東区の南部地域（枝川、塩浜、豊洲）に住んでいる方や体の悪い方などは、通学できません。本当は夜間中学にいきたいのにあきらめて
かた からだ わるほんとう
いる人がいることを思うと、「江東区に夜間中学をつくってほしい」と切実に思います。

かまださとし きょういく う けんり さいていほしょう ぼ
ルポライターの鎌田慧さんから、「夜間中学は、教育を受ける権利の最低保障の場です。その場をつくるのは自治体の最低の義務です。人権の場としての夜間中学をはやく開設してください。」とのメッセージが寄せられました。

わたし
私たち「つくる会」は、北海道に公立夜間中学校の開設の要望を北海道や札幌市に
提出しております。その立場から、全国夜間中学校研究会と連帯するためにも、「すべての
人に義務教育を！専門委員会」に参加して、北海道にも一日も早い公立夜間中学の開校
を実現したいと考えております。

こんかい せいけんこうたい けいき
今回の政権交代を契機に、全国夜間中学校研究会は『教育環境整備法案』の立法化を
めざとく
目指して取り組みをすすめています。

そして、12月4日(金)5日(土)の二日間、神戸市教育センターで開催される第55回全国
夜間中学校研究大会(兵庫大会)の初日に、『拡大「すべての人に義務教育を！専門委員
会』が開かれます。

この専門委員会に「拡大」がつけられたのは、公立夜間中学校のほかに自主夜間中学も
参加するためです。そこには文部科学省副大臣の秘書も同席します。「つくる会」から3名が
参加し、自主夜間中学の受講生や学習者さんたちの「生の声」を国会議員に伝えられたらと
おも
思っています。

せいがんしよめい ほうこく 請願署名のご報告

「義務教育を受ける機会が実質的に得られていない人たちへの就学・
修学保障についての請願」を提出しました。

- 北海道教育委員会 教育委員長 橋場 昇 様
教育長 高橋 教一 様

署名数 58,260筆 10月5日提出

- 北海道道議会 議長 石井 孝一 様

(議長入院中のため、副議長平出陽子様へ提出。)

署名数 58,479筆 10月6日提出

【請願】

- ① 北海道におけるセンター校の役割を担う公立夜間中学(公立中学校夜間学級)を札幌に開設すること
- ② 道内の自主夜間中学を運営する民間団体に対して、学校の教室使用を主とした施設の提供と財政的支援を行うこと

【実施団体】

連合北海道 北海道に夜間中学をつくる会 民主教育をすすめる道民連合 北海道教職員組合

署名のご協力ありがとうございました。

☆^{ていきそうかい}定期総会を終えての^お報告と^{ほうこく}挨拶回り☆^{あいさつまわ}

6月22日(月)：^{ほっかいどうぎかいひらいでふくぎちよう}北海道議会平出副議長、^{じみんとう}自民党・^{どうみんかいぎ}道民会議、^{みんしゆとう}民主党・^{どうみん}道民連合、^{れんごう}公明党、^{こうめいとう}フロンティア、^{にほんきやうさんとう}日本共産党の5会派に^{かい}総会報告と挨拶に行きました。

民主党・道民連合は、4人の^{ぎいん}議員が^{ちいき}全道4つの地域に自主夜間中学が開校した^{かいこう}実情を^{じつじやう}聞いてくれ、^き今後の^{こんご}支援の^{しえん}あり方を^{かた}検討して^{けんとう}くれることになりました。

6月26日(金)：^{さっぽろしきやういくいんかいきやういくちよう}札幌市教育委員会教育長、^{がっこうきやういくぶちよう}学校教育部長らに札幌市立向陵中学校を^{こうりやうちゆうがっこう}使えるようになった^{れい}お礼と総会報告と挨拶に行きました。

教育長は、「公立夜間中学」の^{かいせつ}開設には「^{かだい}まだまだ課題が多い」としながらも、^{がくれいき}学齢期を^す過ぎた^{ぎむきやういくみしゆうりやうしや}義務教育未修了者について、「^{りやうかい}学校の了解があるが、^{つうじやう}通常の^う小中学校で^い受け入れることができないか^お検討する」という^{まえむ}前向きな^{にんしき}認識を^{しめ}示しました。

7月6日(月)：^{さっぽろしちやう}札幌市長に総会報告と挨拶に行きました。

そのさいに、市長は、「公立夜間中学の^{こんご}今後の^{ほうこうせい}方向性は^の出して行きたい」と述べられました。

その方向性から「札幌市の^{てき}モデル」として、「^{かね}テスト的に^かお金の^かかからない^{ぶぶん}部分で^{けんかい}やれることがあるのでは」との見解も示しました。

7月8日(水)：^{さっぽろしぎかい}札幌市議会、^{しみんれんごう}民主党・市民連合、^{じみんとう}自民党、^{こうめいとう}公明党、^{きんとう}共産党、^{かい}市民ネットワーク、^{かい}改革維新の会の7会派に総会報告と挨拶に行きました。

7月23日(木)：^{しやうがい}北海道教育委員会、^{しやうがいがくしゆうきやくちよう}生涯学習局長、^{かちやう}課長、^{ぎむ}学校教育局義務教育課長などに、^{きやういく}総会報告と挨拶に行きました。
^{みちしたどうぎ}道下道議が^{いっばんしつもん}一般質問で、^と夜間中学について^と問いただしたこともあり、

道教委は、すでに旭川市、函館市、釧路市の各教育委員会から聞き取り調査をしておりました。

そのうえで、道教委は生涯学習を推進することから学校開放は積極的に進める。しかし、「教室の専用的利用」から教室利用には難しさがある。また、遠方からの自主夜間中学への通学に、交通費援助などの「就学援助」に対する要望には、「学校教育制度外のことで、まったく前例がない」とのべられました。

- : 事務局会議は毎月第1週の木曜日、午後6時半から開催しています。
- : 場所は、エルプラザ2階会議室です。
(〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目)

発行日 2009年12月10日

「北海道に夜間中学をつくる会」URL	http://yakanchugaku.enyujuku.com/
「札幌遠友塾 自主夜間中学」URL	http://enyujuku.com/
釧路自主夜間中学「くるかい」URL (「つくる会」ホームページにリンクしています)	http://kurukai08.exblog.jp/